

医療系学生の SNS への意識に関する調査と SNS 教育の効果に関する考察

照屋 健作

帝京平成大学 現代ライフ学部 経営マネジメント学科

Survey on medical students' consciousness to SNS and a consideration on SNS educational effect

TERUYA Kensaku

Department of Business Management, Faculty of Modern Life, Teikyo Heisei University

Abstract

It is a fact that SNS (Social Networking Service) is used by many people regardless of age and sex. By using SNS, it is possible to send out what you thought or felt by sentences, images or videos. On the other hand, if you use SNS to deliver inappropriate content, you and your stakeholders may be affected. If medical professionals or students seeking medical professionals had problems with SNS, they would have to leave the medical community. I am conducting classes for improving information moral to such students. Therefore, in order to explore better educational method, I conducted questionnaire surveys and examined the effects of my SNS education.

Keywords : SNS 教育 医療系学生 情報モラル 教育効果 アンケート調査

1. はじめに

SNS (Social Networking Service、例：世の中に公開することを目的とした Twitter¹⁾、Facebook²⁾、Instagram³⁾ などや、連絡手段として使用し公開することを目的としない LINE⁴⁾ など) は、老若男女問わず多くの人達に利用されている⁵⁾ ことは事実であろう (その他にも、音楽に合わせてダンスを踊るなどの動画共有コミュニティ TikTok⁶⁾ が近年流行している)。SNS を利用することで、自分の考えたことや感じたことな

どを文章や画像・動画で簡単にすぐ発信することが可能である。その一方で、不適切な発信によって、発信者やその関係者などが被害を受けることがある。例えば、発信者の個人情報が特定され、インターネット上 (以下、ネット上) にそれらの情報が載る。一度でも出てきた情報は、情報複製の容易性のためにネット上から削除することは不可能となってしまう。また事実と異なることがあっても、事実かのように読み手に伝わってしまうこともある。そして、その発信者の社会的な立場を傷つけたり失わせたりする騒動が起き、大

きな問題に発展する。このような騒動を「炎上」^{注1)}という。この用語はネット上で生まれたものではあるが、本稿でも「不適切な発信によって、発信者やその関係者の日常生活に支障をきたすほどの騒動」を意味しているということで使用する。

さらに医療に携わる人達や医療職を志す学生が、SNSによって炎上に巻き込まれることがある。例えば、「女性看護師が、院内で撮影した認知症の入院患者の写真をインターネットの交流サイト『フェイスブック (FB)』の個人のページに無断で掲載していた」⁷⁾ことや「2年の看護学生 (19) が講義で使われた患者の臓器の検体を撮影し、写真をインターネットのツイッターに掲載した」⁸⁾ ことにより、ネット上だけでなく新聞や雑誌などのマスコミも取り上げる事態となった。このようになってしまうと、所属する機関から処分されるだけでなく、ネット上に個人情報に掲載され、医療職の立場を失ってしまったり、日常生活を行いにくなったりしてしまうことが予想される。SNSから発信する人は、望んでそのような事態を起こしたわけではないであろうが、手軽に利用できるためか、炎上を引き起こしてしまった可能性が高い。

医療職にある人やそれを志す学生によって引き起こされる炎上と医療系以外の人達が引き起こしてしまうそれとを比較すると、筆者の所感ではあるが、前者の方がより大きな騒動となっているようだ。この所感が正しいかどうかは検証・調査が必要であるが、それは別の機会に譲りたい。この所感が正しいと仮定すると、SNSで不適切な発信を行ってしまう人には医療職であって欲しくないと願っている人達が多いと推測できる。医療職は命に携わる仕事であるため、正しい倫理観や医療に対する使命感を持っていることが普通だと世間から思われているからである。

しかし、医療職にある人や医療職を目指す学生が不適切な発信を行ってしまう人に、倫理観や使命感がないわけではない。また初めから備わっているものでもないだろう。様々な学習や経験を通じて徐々に身につくものである。それらが身につけていない未熟な状態でかつ情報モラルが備わっていないからこそ、思いつけず炎上を引き起こしてしまったと考える。それゆえに、医療職にある人や医療職を目指す学生に情報モラルがあれば、すなわち世間に未熟さが露呈しなければ、その人の将来を失わせることはないであろう。

未熟さを露呈してしまわないようにするために、学内規則でSNSを使用禁止とする方法も考えられるが、

それは現実的には難しいだろう。誰もが使用できるものであるため、SNSのメリット・デメリットを理解させて、使用させる方が実現可能な教育となるだろう。

筆者は、医療系のA専門学校で主にSNSに関する情報モラルについて授業を担当している。そこで本稿では、医療系学生が炎上を引き起こさないためのよりよい授業方法の模索とその効果について考察する。

II. 研究目的

医療職を志す学生が、授業と学生の主体的な学びによってSNSの光と影の部分を理解し、学生生活においてや社会人として適切なSNS利用を行えるようになる方法を考察すること。

III. 倫理的配慮

帝京平成大学の倫理審査委員会より承認を受けて実施している (倫理審査承認番号: 30-004)。尚、事前に専門学校の長に調査に関する依頼し了承を得ている。研究対象者への倫理的配慮について文章および口頭にて説明し、了承を経ってから実施した。アンケート調査を実施する前に、調査への協力は自由意志であること、拒否した場合も成績等に不利益がないこと、調査対象者や調査日を公開しないことを文書と口頭で説明した。また、アンケート用紙の提出をもってアンケートに協力することに同意とみなすことを伝えた。アンケート調査は無記名式で行った。

回収したアンケート用紙は、施錠できる場所で保管している。またアンケート用紙は、本稿が公開されて10年後にシュレッダー廃棄する。PCで処理したアンケート調査結果の電子データをUSBメモリに保存し、施錠できる場所で保管している。このデータも10年後にデータを削除した後、USBメモリをフォーマットする。

また本稿では、研究対象者である医療系学生が作成したポスターを掲載するが、個人名や施設名の漏えいがないように情報管理には十分配慮することを伝えた。具体的には、ポスターに個人名を書かないこと、施設名を記載した場合は、画像処理で施設名をマスクするといったことである。更に、研究対象者に学術目的のために研究結果を公表することについて承諾を得た。

IV. 研究方法

IV-1. 対象

医療系の A 専門学校 1 年生 82 名（アンケート用紙の回収率は 100%）。

IV-2. 時期

20XX 年 XX 月 XX 日。

IV-3. 授業の概要

1 コマ 90 分授業を 2 コマ連続で行った。1 コマ目は、SNS の良い点・悪い点を踏まえ、炎上した事例を中心に紹介し、医療職に求められる倫理観を受講生に考えてもらった。2 コマ目は、グループワークで、医療系の学生として SNS の利用ルールについて話し合いを行い、オープンキャンパスで掲載するポスターを作成するという課題を出した。最後に、どのような話し合いを行ったかについて、ポスターを使用した発表を行ってもらった。

IV-4. 授業のねらい

- 1) SNS のメリットとデメリットを理解できること。
- 2) 世の中でおきている SNS による炎上を認識すること。
- 3) SNS で炎上を起こさない医療人となるために、日ごろからの心がけを行えるようになること。

IV-5. 授業の内容

1) SNS が登場する以前の情報発信方法

自分が感じたことや考えたことを世の中に伝える方法は、新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などに投稿することであった。しかし、投稿しても必ず採用されるわけではなく、また採用されたとしても、感じた時・考えた時から、世の中の人に知ってもらうまでにタイムラグが発生する。SNS はそうした問題を解決し、またそれを通じて、世界中の人達とコミュニケーションを持つことが可能となる。このことは、SNS がなければ、達成することがほぼ不可能である。

2) 授業の結論と事例（公開型の SNS のケース）

先に授業の結論（SNS での推奨事項）を述べ、その結論に至った事例を紹介する。結論とその理由は、以下の通りである。尚、事例の詳細については、本稿では省略する。

1. SNS には実名を登録しない。また所属している機関も公表しない。
2. 不特定多数の人達に発信内容を見ることができないように、非公開設定を行うことを推奨。もし、世の中に発信したいことがあるのであれば、自分の個人情報、身近な人のこと、所属する機関など

の詳細を発信しない。

3. 問題のある発言や画像・動画を発信しないように気をつける。

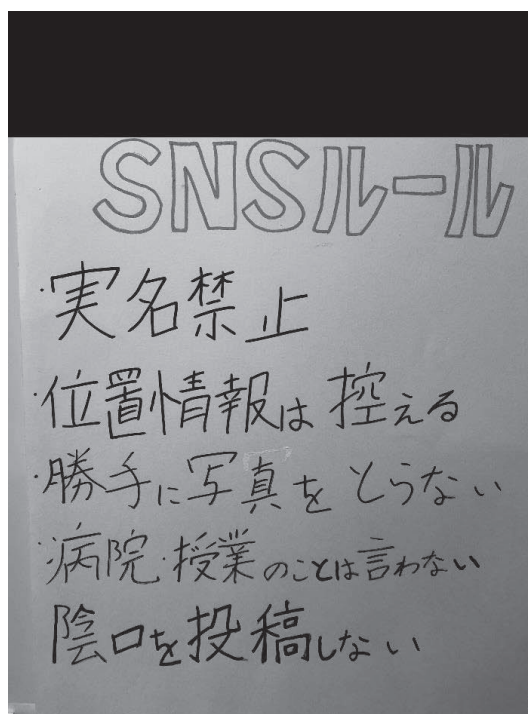
多くの事例で明らかなことは、実名と所属機関を公表していると個人情報が特定しやすく、また、所属する機関の連絡先の入手は容易であるため、炎上が起こりやすい。そのため、1 を強く推奨している。もちろん、実名や所属機関を公表していなくても、過去の発信した文章や画像・動画から個人の特定につながることもあるが、公表していなかったことにより個人が特定されず、炎上収まった事例もある。

2 の非公開設定を推奨する理由は、前述のように、実名等を公表していなくても個人情報が特定されたケースがあるからである。特に友人や身近な人などと SNS を使用する場合は、ちょっとした悪ふざけや冗談のつもりの内容をつい発信してしまうことがある。それを無関係な人が閲覧してしまった場合は、炎上に繋がってしまう可能性がある。その一方で、非公開設定では共通のテーマや趣味を通じて世界中の人とコミュニケーションを行えるという SNS の醍醐味がなくなってしまう。その目的のために SNS を使用するのであれば、個人情報特定につながる身近なことや所属機関での出来事などは極力発信しないようにすることが大切である。また画像から個人情報が特定されたケースもあり、撮影した画像の発信にも注意が必要である。SNS では、複数のアカウントを作成することが可能なため、公開用と非公開用とを使い分けても良いことも伝えている。

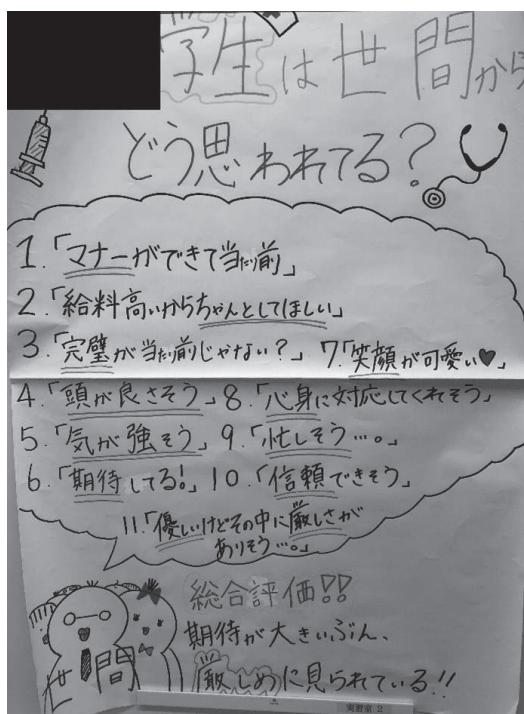
3 については、発信する前に問題がないかどうかを確認することが大切ということである。その場の勢いや咄嗟の判断で発信すると適切でないことがあるため、炎上に繋がることがある。発信する前にどんな人にも迷惑をかけないかどうかを判断することが重要である。また、疲れているときや寝不足の際には、判断力が鈍るため、そういった場合は極力 SNS を控えた方がよい。また飲酒できる年齢になって、飲酒した際は気が大きくなったり適切な判断ができなかったりする可能性があるため、その時も発信はしないように心掛けることが大切である。

3) 授業の結論と事例（非公開型の SNS のケース）

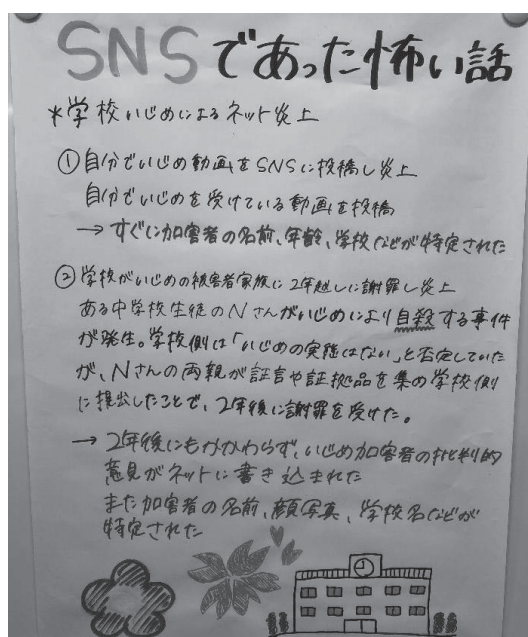
非公開型の SNS は、不特定多数というより身近な人とのコミュニケーションの手段として使用されることを想定している。伝えたい内容を瞬時に送信することが可能である。1 対 1 だけでなく、複数人でのコミュ



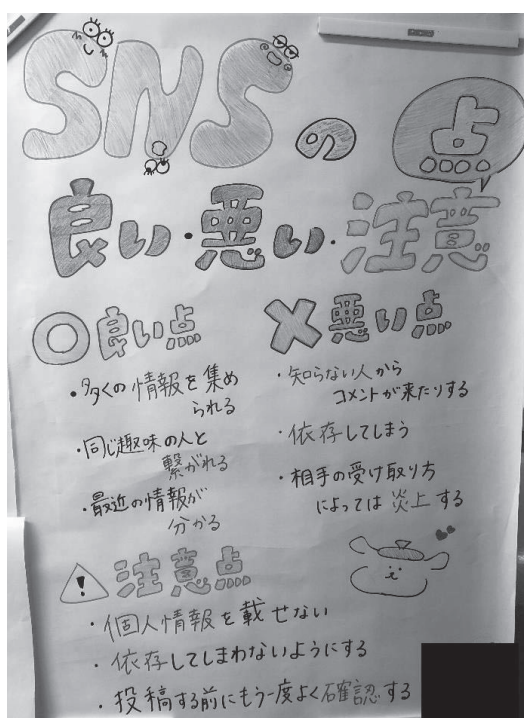
画像1 学生による SNS 利用ルールの提案
※黒塗りの部分は、学校名が記載されている



画像3 医療系の学生に対する世間から印象を推察



画像2 グループワークで話題となった炎上の話



画像4 SNS の良い点・悪い点・注意点

ニケーションも可能で、送信したメッセージを相手が読んでくれたかどうかを確認することもできる。メッセージのやりとりが瞬時に行うことができるため、あたかも会話をしているかのような感覚でコミュニケーションを行うことができる。気をつけるべき点は、相手の顔が見えない状態で、文字のみでコミュニケーションを行うと、雰囲気やニュアンスが伝わらず、誤解を生む可能性があることである。そして、それがトラブルの原因となることがある。また、非公開がゆえに、不適切な発信が起きやすい。さらに、医療系の学生であれば、実習等で知り得た患者の個人情報や実習施設の機密事項などをつい発信してしまう可能性がある。非公開であっても技術的な要因や人為的な要因によって、個人情報が流出してしまう可能性があるため、注意が必要である。

4) 医療職に対するイメージ

上記内容を紹介した後、次のような問いかけを行った。「所感ではあるが、一般の人が起こす炎上よりも医療職やそれを志す学生が起こす炎上の方が大きい。この所感を正しい前提として、一般の人と医療職とは何が違うのかを考えてみよう。まずは医療職の特殊性をキーワードで挙げてみよう」。ここで期待しているキーワードは、「守秘義務」、「専門職」、「倫理観」があるということや、「期待」、「信頼」、「信用」といったものである。そして、それらに関連するワードが学生からでてきた。

5) ポスター作成（グループワーク）

7、8 人の学生で 1 つのグループを構成し、そのグループでキーワードから文章化し、そして文章からオープンキャンパスに参加する人達へのメッセージをポスターで作成する作業を行った。自由な発想で SNS に関して話し合っただけだったので、特に細かなルールは設定しなかった。その後、ポスターを使用して、それを作成した経緯やグループワークで話題になったことなどを発表してもらった。

V. 結果および考察

V-1. グループワークで作成したポスター

まず、グループワークで作成されたポスターについて紹介したい。

画像 1 は、学生が提案した SNS 利用のためのルールである。グループワークで話し合った結果、このようなルールを守っていけば大きなトラブルに巻き込まれ

る可能性が低くなるという結論に至っている。これらの内容は教員から伝えることも可能であるが、学生から主体的にルールを作ることによって不適切な発信の抑制に繋がるであろう。

画像 2 を作成したグループワークでは、学生達の身近なところで起きた SNS でのトラブルについてである。世の中で色々な SNS のトラブルが起きているとはいえ、自分の身の回りで起きるとは想像しにくい。しかし、同じ仲間からそれらのことを聞いたり確認したりすることによって、身近なところでもトラブルが起きやすいと認識することが可能となるだろう。

画像 3 は、医療系の学生が世間からどのように見られているかを話し合い、それをまとめたものである。画像 1 と同様に教員から伝えることも可能であるが、自分達で考えることによって、医療人としての自覚が芽生えるようになるだろう。

画像 4 は、SNS の良い点・悪い点・注意点をまとめたポスターである。授業の中でも紹介している内容であるが、そこから学生同士で話し合うことによって、より良い SNS の使用法を考えることができるであろう。

V-2. アンケート調査の結果

アンケート調査の質問項目とその結果は次の通りである。尚、SNS では様々なサービスが存在するが、この調査では公開型として使用される Twitter と非公開型として使用される LINE に限定した。

0. 性別

調査前は、男女で使用法や考え方に違いがあるかもしれないと考え、この質問項目を設定したが、90% 以上が女性であった。そのため、男女別で測ることは無意味であるので、以下の調査結果では性差は区別していない。

1. Twitter を利用しているかどうか

今回調査対象となった学生のうち、85.4% が Twitter を利用していることが判明した（図 1）。

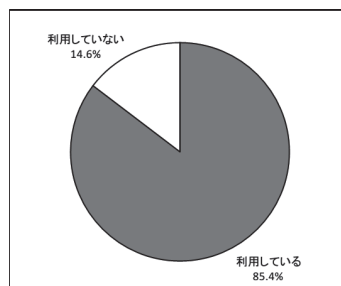


図 1 あなたは Twitter を利用していますか？

2. 表示されるアカウントを実名にしているかどうか

Twitter を使用している学生のうち、12.9%が自分の名前を漢字でフルネームのアカウント名として表示していた。また、62.9%は実名を推測することが可能な形でアカウント名を表示していた（図2）。

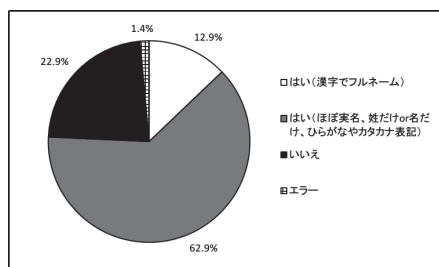


図2 アカウント名は実名ですか？

※エラーは、「2つのアカウントを所有し、実名アカウントと実名でないアカウントがある」と追記されていた。

3. アカウント名を実名から実名以外にするかどうか

アカウント名を実名もしくは実名に近いものにしてある学生のうち、17.0%が実名でないアカウント名に「はい」と回答したが、81.1%は「いいえ」と回答し

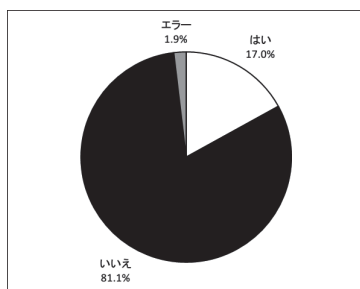


図3 授業を受けて、実名でないアカウント名に変更しますか？（図2で「はい」と回答した学生のみ）

た（図3）。

4. アカウントを実名以外にしない理由

その理由を確認したところ、図4のような結果となった。最も多かったのは、「理由はないが実名のままで特に問題はないと思っているから」で、次いで「実名に変わるハンドルネームが思いつかない」、「かつての友人・知人がTwitterで自分を発見できなくなるから」であった。

5. Twitterでの発信状況

Twitterの利用率は高いものの、図5から77.1%が「主に見るだけ（返信やリツイートが多い）」であり、主体的に発信するというより受け身型が多いことが分かる。前項のアカウント名を実名以外にしない理由で、「実名のままで特に問題はない」と回答した学生が多いことを踏まえると、「自らが発信しないことからトラブルに巻き込まれにくい」と考えている可能性がある。

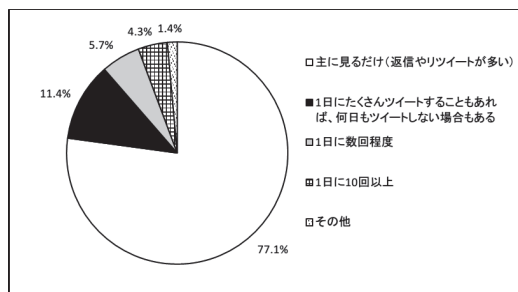


図5 最近3か月間の平均ツイート数

6. 発信内容を非公開設定にしているかどうか

非公開設定にしている学生が54.3%であった（図6）。このことも「実名のままで特に問題はない」と回答した要因になっている可能性がある。

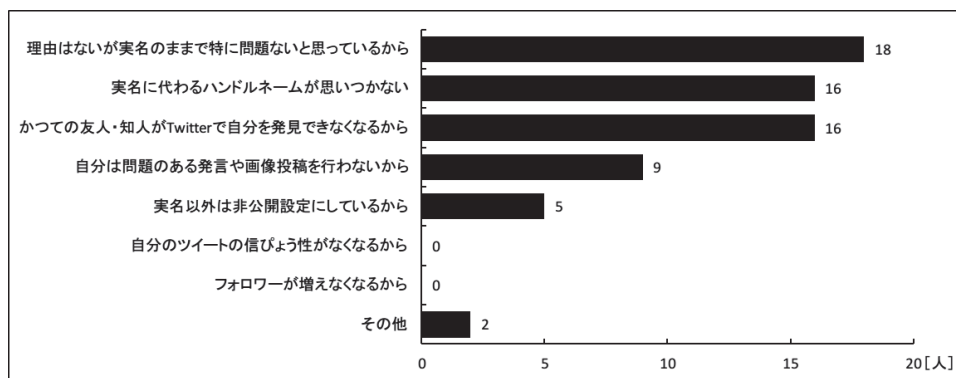


図4 実名でないアカウントに変更しない理由（複数回答）

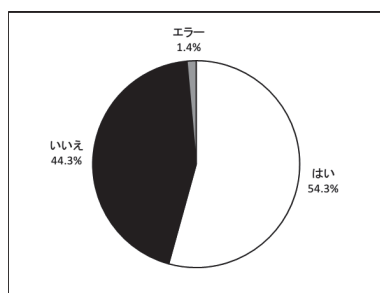


図6 あなたはTwitterを非公開設定にしていますか？
※エラーは、「2つのアカウントを所有し、実名アカウントは非公開設定と実名でないアカウントは公開設定にしている」と追記されていた。

7. 発信内容を非公開設定に変更するかどうか

Twitterを利用している学生うち、44.3%が発信内容を非公開設定にしておらず（図6）、またそのうちの25.8%が非公開設定に変更すると回答し、74.2%は変更しないと回答した（図7）。

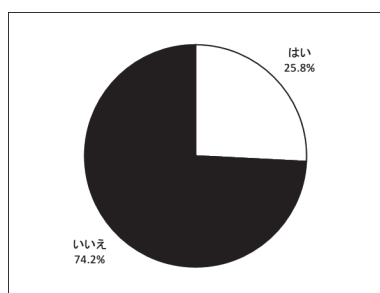


図7 授業を受けて非公開設定にしますか？
（図6で「いいえ」と回答した学生のみ）

8. 非公開設定に変更しない理由

前項で変更しないと回答した理由としては、「理由は

特にないが非公開設定にする必要性を感じないから」が最も多く、次に「自分のツイートやプロフィールは公開しても問題ないから」という回答が多かった（図8）。非公開型のLINEやスマートフォンに搭載されているメッセージ機能（SMSやMMS）との併用もその理由となっていると考えられる。

9. LINEを利用しているかどうか

この質問の回答は、「はい」が100%であった。そのため、図にしていない。この結果から、LINEは身近な人との連絡手段やコミュニケーションを行う手段として、学生達に完全に浸透していると推測できる。

10. LINEの「既読機能」に対する印象

既読機能によって、自分の送ったメッセージが相手の返信がなくても伝わったかどうかを確認することができる。この機能に対して、「特に何とも思わない」は51.2%、そして「相手を読んでくれたかどうかが良い」は34.1%と、計85.3%が好意的な回答となっていた。ただし、一部の学生は、その機能のため「プレッシャーがある」と回答した（図9）。

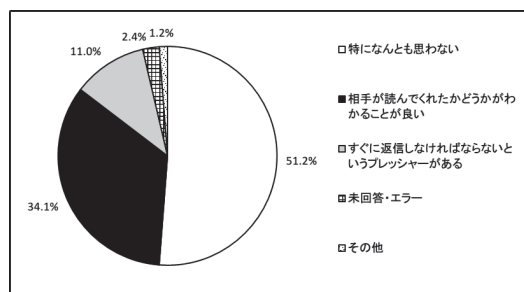


図9 LINEの既読機能に対する印象

11. この専門学校に入学して、LINEで夜更かしをする（午前1時を超える）ことはあるか

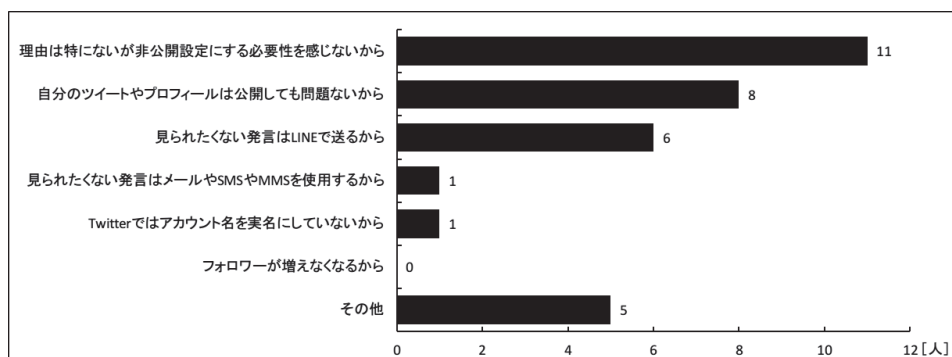


図8 Twitterを非公開設定にしない理由（複数回答、図7で「いいえ」と回答した学生のみ）

この質問に対しては、79.3%が「ほとんどない」と回答したが、残りの約20%はLINEによる夜更かしを経験していた(図10)。当然ながら夜更かしは、学習効率低下に影響するため、できるだけ抑制させた方が良好だろう。また、深夜に文字でのやり取りを行うと何かしらの誤解が発生し、学生間のトラブルに繋がる可能性がある。

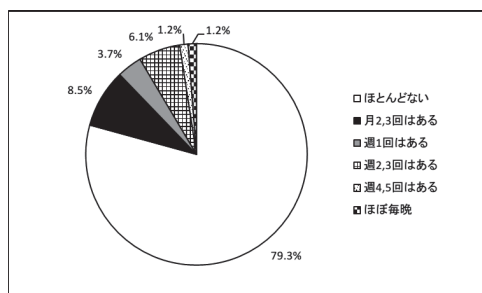


図10 入学してLINEで夜ふかしをする(午前1時を超える)ことはありますか?

12. 自由記載

一部抜粋して紹介する。授業の進行の仕方においては、グループワークの行い方の「ルールがもう少しあった方が行いやすかった」という意見が1件あった。前述したように、自由な話し合いを行って欲しいという意図があったため、細かいルールを設定していなかった。しかし、円滑に作業を行うためにも情報交換を行いやすい条件を考えたり、時間設定を明確にしたりしていく必要があるだろう。その他の自由記載では、「グループワークを行うことで自分では気がついていなかったことに気がつくことができた」、「グループワークの時間がたくさんあってよかった」、「実際にあった話を知ることができて良かった。SNSでは何に気がつけばよいのか分かった」、「今後のSNSの使い方に気を付けていきたい」など、好意的なコメントが多かった。また、「これまでもSNSでは気をつけて使用していたので特に変化はない」といったコメントが少数ではあるものの、ネットリテラシーに対する意識のある学生がいることも分かった。

V-3. 考察

SNSの代表格であるTwitterのアカウントを作成している学生は多い。また、アカウント名を実名もしくは実名に関連するものを使用している方が、多数派である。授業で紹介している事例では、実名を公表していることによって個人情報特定しやすくなっていた

ため、実名非公表を推奨していた。しかし、調査対象となった学生においては、積極的に発信している学生は少数派である。そのため、授業を受けグループワークを行っても、実名ではないアカウント名に変更するインセンティブとならなかったと考えられる。確かに文字や画像を発信しないのであれば、無用なトラブルに巻き込まれることはない。

ただ、判断力が低下している場合や飲酒している場合などに、考えてもいないことをつい発信してしまうこともあるかもしれない。そんな些細なことで将来を台無しにしないようにするためにも、授業で推奨している3番目の「問題のある発言や画像・動画をアップロードしないように気をつける」の内容を、より具体的に説明する必要がある。もちろん、発信内容自体を非公開設定にするという手段もあるが、そもそも大半の学生は非公開設定にしている。そのように設定にしている学生ほとんどは、自分達の発信内容を見て欲しいというより、他人の発信している内容を確認するためにTwitterを利用している。そのため、非公開設定を推奨するよりも、適切にTwitterを利用するための教育方法を考えることがより重要となる。

Twitterの利用率も高かったが、LINEの利用率は100%であった。このことにより、友人や身近な人とはTwitterでコミュニケーションをとらずLINEで行っている可能性が高い。LINEは不特定多数に公開するものではないので、炎上は起こりにくいだろう。しかし、双方向で直接メッセージを送り合っているかのような錯覚があるが、発信した内容は運営している企業のサーバーを経由しているのである。運営している企業は、情報流出が起きないように様々な対策を行っているだろうが、セキュリティを脅かす攻撃やセキュリティホールが発見などの技術的な要因によって流出の可能性はゼロではない。また、LINEでの内輪話をスクリーンショットし、それを公開することが容易であるため、人為的に情報が流出する可能性がある。そうならないようにするためにも、倫理観や使命感の未熟さをSNSの機能で見えないようにするだけでなく、これまで以上に本格的な倫理教育を含んだ情報モラルを身につけるための方法を考える必要がある。

またそれに合わせて、医療職養成の教育機関においてはLINE利用のルールを明確にしておく必要があるだろう。例えば、実習施設で知り得た患者情報や実習記録をLINEに載せてはならないと明文化することが必要である。また、LINEによって一部の学生は夜更か

しをしてしまうため、学生同士で、メッセージを送って良い時間帯の上限や送られてきたメッセージを確認しても返信をしなくても良いコンセンサスを作ることが大切である。

VI. 結論

情報モラルを向上させるための授業において、炎上に関する事例を紹介することは、学生達に SNS 使用の注意点を喚起することが可能である。しかし、不特定多数の人から見る事ができない SNS において、倫理観のない内容があるかも知れず、それが何かしらの理由で流出する可能性がある。そのため、より倫理観や医療職としての使命感を認識させたいという情報モラル向上のための教育方法を模索していかなければならない。

VII. おわりに

筆者が「炎上」を初めて知ったのは 2004 年である。炎上の詳細は割愛するが、SNS に記載していた個人情報とその SNS 以外にあった不適切な情報が一致し、それが瞬間にネット上に広がっていたことに恐怖を感じていた。

医療職は、センシティブな個人情報を扱わなければならない。その一方で、医療職はその情報を容易に入手でき、また SNS をいつでも使用できる立場でもある。そのため、倫理観や使命感を育む教育を、医療職を志す学生に対して行っていかなければならない。

最後に、本稿を作成するために、アンケート調査に協力してくれた医療系の A 専門学校の学生に対して感謝の意を示す。

注 記

注 1) 炎上のきっかけ・メカニズム・影響等については次の文献を参照されたい FOM 出版 (2013): SNS トラブル回避術ーソーシャルメディアガイドラインの作り方ー, FOM 出版, 東京, p.40-43.

引用文献

- 1) Twitter, Inc.: Twitter, <https://twitter.com/?lang=ja> (参照日 2018. 12. 31) .
- 2) Facebook, Inc.: Facebook, <https://www.facebook.com/> (参照日 2018. 12. 31) .
- 3) Instagram, LLC.: Instagram, <https://www.instagram.com/?hl=ja> (参照日 2018. 12. 31) .
- 4) LINE 株式会社: LINE, <https://line.me/ja/> (参照日 2018. 12. 31) .
- 5) 平成 29 年度版情報通信白書 . 第 1 部第 1 節 1 (1) 数字で見たスマホの爆発的普及 (5 年間の量的拡大) . 総務省 . 公開日 2017. 07. xx. <http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h29/html/nc1111110.html>. (参照日 2018. 10. 30) .
- 6) ByteDance 株式会社 :TikTok, <https://www.tiktok.com/jp/> (参照日 2018. 12. 31) .
- 7) 朝日新聞:「患者の写真掲載, F B に 看護師, 厳重注意」, 2012 年 9 月 27 日朝刊, 徳島全県・1 地方, p.31.
- 8) 朝日新聞:「臓器の検体写真, ネットでさらす 岐阜の看護学生」, 2013 年 7 月 2 日朝刊, 3 社会, p.37.

